



群馬県立がんセンターだより

第20号

発行 平成24年2月 群馬県立がんセンター

理 念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。
2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

放射線治療 40 年を振り返って

がんセンター開設 40 周年を迎え、当センターの放射線治療の歴史について紹介したいと思います。私はがんセンター開院翌年の、昭和 48 年 4 月から放射線部門に新規採用職員として、勤務を始めました。それからほとんどの期間、放射線治療に携わって来ました。

昭和 48 年当初は、コバルト 60 照射装置とリニアック照射装置が稼働を始めたばかりで、1 日の治療患者も数十人程度だったと思います。少し遅れて RI 棟における、ラジウム 226 針による舌がん、セシウム 137 管による子宮がんに対する密封小線源治療及びヨウ素 131 による甲状腺の内服治療が始まりました。

当時の治療計画は X 線写真をもとに手計算で行われていましたので、体内の放射線量分布を正確に知ることは困難でした。昭和 50 年になると、当時日本で最初に導入されて治療計画専用 CPU を用いて、密封小線源治療や回転横断 X 線撮影装置による外部照射の線量計算が行われるようになりました。

ラルストロンと呼ばれる密封小線源の遠隔治療装置が婦人科により導入されました。専用の照射室がないため、コバルト照射室に設置しましたが専用の X 線透視装置が無い事や、直腸障害等の理由により、広く利用されませんでした。

昭和 55 年になると、診断部門に X 線 CT 装置が導入され、病巣の広がり等が正確に把握できるようになりました。

昭和 59 年にリニアック治療装置が更新されると共に、ミニコンピュータを用いた治療情報システム及び CT 画像を用いた治療計画装置が導入されました。治療計画では革新的なことであったが、診断用 CT 装置の利用のため件数は限られていました。昭和 63 年になると診断部門に MRI 装置が導入され、治療計画にも利用されました。

平成 8 年にリニアック棟を増築し、老朽化したコバルト照射装置をマルチリーフコリメータを装備したリニアック装置に更新し、2 台のリニアックによる治療が開始されました。



技術部長 遠藤 廣

平成 13 年にリニアック装置の更新を行うと共に、治療計画専用 CT 装置が設置され、本格的な CT 治療計画が開始されました。また、治療情報システムも更新され、本格的な部門システムが構築されました。

平成 16 年に泌尿器科により前立腺がん永久刺入システムが導入され、前立腺がんに対する密封小線源治療が開始されました。

平成 19 年に新病院となり、最新の機能を持った医療機器が整備されて以来、当センターではリニアックによる外部放射線治療、密封小線源による腔内、組織内治療及び内服治療と 3 種類の放射線治療が可能になっています。

最近では、リニアック装置を用いた最新の治療技術である、強度変調放射線治療や画像誘導放射線治療が行われています。

以上、がんセンター開設からの放射線治療について簡単に紹介しました。

今後も、技術部職員の資質の向上と高度専門医療の充実・強化を図っていききたいと思います。

《がん診療連携拠点病院講演会》

「がん治療の最前線 —はやく見つけて しっかり治そう—」
を開催しました

がんセンターでは、地域がん診療連携拠点病院として、一般の方を対象に「がん」についての知識を深めていただくことを目的として、年に1回、講演会を開催しています。

今回は、1月21日（土）にがんセンター大会議室において、消化器がんに関する講演として、がんセンター医師を講師として下記の2講演を実施しました。

冷たい雨の悪天候の中でしたが、定員80名を上回る90名もの方にご参加いただき、みなさま熱心に各講演を聴講されていました。講演後も多くの質問が出され、消化器がんに関する治療や検診の重要性についてご理解いただけたようでした。

「胃がんの内視鏡治療と最前線」 講師：保坂 尚志（消化器内科）

わが国は、世界でも非常に多く胃がんが発生する国のひとつですが、その死亡率は年々低下してきています。これは、胃がんになっても、検診の普及や治療技術の進歩によって、早期に発見し、適切な治療により治る確率が高くなっているからです。また、新しい内視鏡的粘膜切除術（ESD）の開発により、粘膜内に留まるような早期胃がんで分化型のがんであれば、かなりの大きさがあっても内視鏡的に根治できるようになりつつあります。

胃がんは進行の程度にかかわらず、症状が全くない場合もあります。胃がんは早期に発見できれば、体に負担の少ない治療で完治できるため、たとえ無症状であっても定期的に検診（特に内視鏡検査）を受けていただき、早期発見することが極めて重要です。

今回の講演は、この新しい内視鏡的粘膜切除術（ESD）についてわかりやすく解説し、また、当院の内視鏡センター内の様子（治療中の様子なども含め）についてもご覧いただきました。



「消化器がん治療の進歩」 講師：尾嶋 仁（消化器外科）

消化器がんのうち罹患率の1位は胃がん、2位は大腸がんで死亡率も高いです。また、食道がんは悪性度が高く5年生存率は約30%前後です。これら消化器がんは、他のがんと同様に環境因子と遺伝因子の影響により発症すると考えられ、早期発見、早期治療により治癒率は向上します。

消化器外科領域では約15年前から鏡視下手術が普及しており、消化器がん領域でも積極的に使うようになりました。早期段階であれば従来の手術と郭清程度は変わらず（同じ内容の手術）、体に負担の少ない低侵襲手術が可能です。当センターでは、食道がん、胃がん、大腸がんに対して鏡視下手術を行っており、手術中の出血量の減少、入院期間の短縮、術後疼痛の軽減などが利点として挙げられます。

抗がん剤を用いた化学療法は、日々進歩しており、大腸がんに関しては、現在、海外で使用されている抗がん剤がほぼ全て使用できます。根治手術不可能な患者さんが手術可能になったり、転移巣が消失したりします。

今回の講演は、消化器外科の立場から、消化器がんにおける腹腔鏡、胸腔鏡を用いた低侵襲手術の進歩、抗がん剤の治療効果についてお話ししました。



部署紹介

薬 剤 部

薬剤部は、現在、薬剤師 16 名、事務（臨時）3 名で構成されています。患者さんの薬に対する不安を取り除き、安心して治療を受けることが出来るよう努めています。

◎調剤・注射薬調剤

医師の処方した薬の量や飲み方が適切か、処方された薬同士に相互作用がないか確認し調剤します。処方に疑問がある場合は医師に問い合わせ、処方内容の確認をしています。

◎注射薬混合調製業務

ミキシングルーム内の安全キャビネットを使用し、がん化学療法の注射剤を調製しています。がん治療における多くの薬物療法は、治療有効域と副作用域が近接しているという特徴があります。そのため投与量と投与間隔等の確認に細心の注意を払い安全な治療を心がけています。

◎薬剤管理指導業務

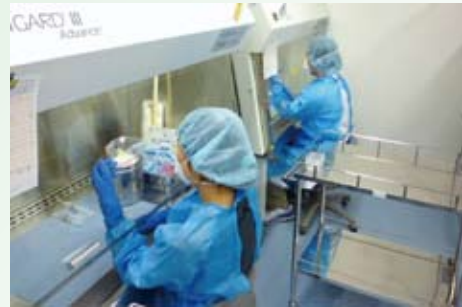
薬剤師が患者さんのベットサイドに伺い服薬指導（薬についての説明と同意）を行っています。患者さんの持参薬や当院で処方された薬についての情報を把握し、薬の相互作用や副作用の防止に努めています。また退院後、調剤薬局においても安全に薬が調剤できるよう、入院中に使用した薬の情報について、お薬手帳を配布して説明しています。

◎麻薬管理

患者さんのがんの痛みや苦痛を和らげるために使用する医療用麻薬の払い出し及び保管管理をしています。



◀ 注射薬調剤（個人セット）



◀ 抗がん剤混合調製

緩和ケア病棟設立に向けた院内講演会を開催しました

平成 22 年 12 月に策定された「群馬県がん対策推進条例」では、緩和ケアの充実（第 9 条に規定）が掲げられ、中でも県の責務として「緩和ケアに必要な病床の確保」が盛り込まれました。また、平成 23 年からの「はばたけ群馬プラン（第 14 次群馬県総合計画）」においても、「がんセンターにおける緩和ケアの充実」が盛り込まれ、がん対策の一つの柱として取り組むべき事業となっています。

当院では、緩和ケア病棟設立準備委員会を立ち上げ、平成 25 年度内の開棟を目指して準備を行っています。このような中、1月 20 日（金）に病棟設立に向けた院内の機運を高めるため、『死ぬときに後悔すること 25』などの著書で有名な東邦大学大森病院の大津秀一先生を招き、講演会を実施しました。

大津先生は、当時最年少のホスピス医として日本バプテスタ病院ホスピスに勤務後、入院・在宅双方で終末期医療を実践し、多くの患者さんを看取ってこられました。本講演では、「緩和医療とは何か？～今改めて緩和を問いなおす～」と題し、緩和ケアの意義や実践方法、傾聴の重要性について、力の入った講義をしていただきました。中でも、緩和ケアの目的を「患者さんが望むような、良い時間を過ごしてもらうこと」とし、緩和ケアとは、「どこでも行え、医療だけではない。やれることはたくさんある。」という、先生の緩和ケアへの考えが強く印象に残っています。医師・看護師を中心に約 100 名の参加があり、病棟設立に対する関心の高さを感じることができました。



外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成24年2月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之		野川 秀之	保坂 尚志	
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		風間 俊文	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 中村 哲之彦 佐野 彰 宗田 真	尾嶋 仁 赤尾 敬彦 深井 康彰 佐野 幸真 宗田 真	福田 敬宏 尾嶋 仁 深井 康 宗田 幸真
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	乳腺科医師 (新来患者のみ)	乳腺科医師 (新来患者のみ)	
		呼吸器			藤田 敦 吉田 勤		藤田 敦
		形成	形成外科医師				廣瀬 太郎 ストマ外来
第二外来	婦人科	平川 隆史 伊吹 友二	平川 隆史 伊吹 友二			鹿沼 達哉 婦人科医師	
	歯科口腔外科	山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦	
	頭頸科	鈴木 政美 岡田 隆平 (午前再診)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前再診)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前再診・午後新患)	
				鈴木 政美 岡田 隆平 (午後新患)			
	麻酔科	高橋 利文			猿木 信裕		
	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 新井 誠二			蓮見 勝(午前) 新井 誠二(午後)	清水 信明
泌尿器科医師 (午後、新患のみ)		泌尿器科医師 (午後、新患のみ)				(ストマ外来)	
放射線科	放射線	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作 樋口 啓子	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	

はたかうま はにわ 展示のご案内 「人が乗る裸馬埴輪」 展示について

「人が乗る裸馬埴輪」は、昭和44年に県立がんセンター敷地内の県立東毛養護学校(後の赤城養護学校太田分校(H15.3.31閉校))体育館建設工事の際に出土したものです。平成5年1月には太田市の重要文化財に指定されています。

全国的にも類を見ない裸馬埴輪であり、6世紀ごろの太田地域の人々が馬と非常に深い関わりをもっていたことを知ってもらうために、県立がんセンター外来において公開展示しています。



診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

- 初診紹介予約制について
当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をお願いいたします。
- がん検診について
当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。

予約電話 0276-38-0762

- 受付時間: 午前9時から午後5時(休診日を除く)
- 電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までにお申し込みください。

※ 休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

面会時間 午後0時30分～午後7時30分

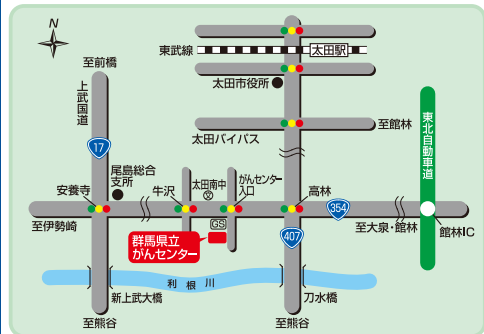
群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1

TEL 0276-38-0771 (代)

FAX 0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>



外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成23年10月1日現在

第一外来	内科	消化器	野川 秀之		野川 秀之	保坂 尚志	
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		風間 俊文	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 中村 哲之彦 佐野 彰 宗田 真	尾嶋 仁 赤尾 敬彦 深井 康彰 佐野 幸真 宗田 真	福田 敬宏 尾嶋 仁 尾嶋 康 深井 幸真 宗田 真
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	柳田 康弘 藤澤 知巳 平方 智子 宮本 健志	乳腺科医師 (新来患者のみ)	乳腺科医師 (新来患者のみ)	
		呼吸器			藤田 敦 吉田 勤		藤田 敦
	形成	形成外科医師				廣瀬 太郎 ストマ外来	
第二外来	婦人科	平川 隆史 伊吹 友二	平川 隆史 伊吹 友二			鹿沼 達哉 婦人科医師	
	歯科口腔外科	山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦		山根 正之 名生 邦彦	
	頭頸科	鈴木 政美 岡田 隆平 (午前再診)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前再診)		鈴木 政美 工藤 毅 (午前再診・午後新患)	
				鈴木 政美 岡田 隆平 (午後新患)			
	麻酔科	高橋 利文			猿木 信裕		
	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 新井 誠二			蓮見 勝(午前) 新井 誠二(午後)	清水 信明
泌尿器科医師 (午後、新患のみ)		泌尿器科医師 (午後、新患のみ)				(ストマ外来)	
放射線科	放射線	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作 樋口 啓子	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	

催事のご案内 「群馬県がん対策推進条例記念講演会」のお知らせ

県民総ぐるみのがん対策の推進と、群馬県がん対策推進条例の周知のために、子宮頸がんの経験者であるタレント向井亜紀さんをお呼びして、講演会「がんと向き合う～自分の身体と時間を大切に～」を開催します。向井さんの講演の他、当センターの福田敬宏院長による講演「がんでは死ねない」も行われます。

- 日 時：平成23年10月20日(木) 18:30~20:30 (開場18:00から)
- 会 場：太田市尾島行政センター(尾島生涯学習センター) 多目的ホール(群馬県太田市亀岡町63-1)
- 参加方法：入場無料。参加希望者は電子申請もしくはFAXでの事前申込が必要です。受付は10月17日(月)まで。
※電子申請(群馬県ホームページ：<http://www.pref.gunma.jp/02/d2900073.html>)
- 申込先・お問い合わせ：群馬県健康福祉部保健予防課がん対策推進係
電話 027-226-2619 (平日午前8時30分~午後5時15分) FAX 027-223-7950



診察予約(初診、再診ともに予約制です。)

● **初診紹介予約制について**
当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をお願いいたします。

● **がん検診について**
当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。

予約電話 0276-38-0762

- 受付時間：午前9時から午後5時(休診日を除く)
- 電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までにお申し込みください。

※ 休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

面会時間 午後0時30分~午後7時30分

群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1
TEL **0276-38-0771** (代)
FAX 0276-38-0614
URL <http://www.gunma-cc.jp>

